

営農情報



管内の水稲の収穫は、関西きっての早場米、今津地区の「ハナエチゼン」の収穫に始まり、「みずかがみ」から早生品種へと順に収穫作業が進んでいきます。体調管理や機械整備など、事前準備を怠りなく実施し、今シーズンも無事に実りの秋を迎えましょう。

稲作の経過

田植え後の「みずかがみ」「コシヒカリ」は茎数が平年より少なく、葉色は濃く経過しました。6月14日に梅雨入りしましたが、6月28日には梅雨明けのニュースが流れ、梅雨明け後の7月には線状降水帯の発生等の影響で大雨がもたらされました。県が実施している病害虫の発生予察では、いもち病の注意報が7月19日の発出に続き同月21日には斑点米カメムシの注意報が出され、病害虫防除の注意喚起がされました。

刈取り適期

刈取りの適期が近づいたら、ほ場に入って穂(籾)をしっかり確認しましょう。黄化籾が85〜90%になり、穂の基部や1次枝梗のつけねに緑色籾が10〜15%程度残った状態が適期です。

刈取り前の水管理

玄米は収穫間近になってから粒厚、粒幅が完成していききます。この時期の水不足は、玄米の充実不足や胴割粒発生を助長することがあります。収穫作業時に支障をきたさない限り、落水はなるべく遅らせるようにしましょう。



異物の混入防止

クサネムなどの雑草の種子や石、プラスチック片や金属片などの異物混入は、品質等級低下の原因となります。収穫作業前にはほ場の確認や作業機械の清掃・管理をするようにしましょう。



農作業事故

毎年、農繁期を中心に農作業事故が発生しています。広く使われている刈払機の使用時においても、安全のための注意が必要で、使い慣れた機械であるがゆえに気が緩むことがあります。今一度気を引き締めて作業にあたりましょう。



刈払機事故の4つの特徴

- 1 傾斜面・法面の不安定姿勢による事故**
 - 30〜40°以上の傾斜地・法面は滑りやすい
 - ⇒小段の設置、スパイク靴の着用
- 2 回転刃の事故(接触、飛散物)**
 - キックバックや小石、チップの飛散
 - ⇒防護の徹底、飛散防止カバーを外さない
- 3 事前の環境確認で防ぐ事ができた事故**
 - 草むらの中に潜む構造物、異物
 - ⇒慣れた場所でも、事前確認
- 4 エンジンを止めずに起こった事故**
 - 回転を止めず、草の詰まりなどを除こうとして
 - ⇒確実に、エンジンを切ってから

熱中症対策に

- ・こまめな休憩と水分補給
- ・通気性・速乾性・吸湿性の衣服
- ・高温時の野外活動を控える